

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
数学 I	数学 I	1	A B C D E F	3	必履修	105 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	荻原 秀明、高田 伸、伊藤 柊人、永岡 美恵子
授業形態	習熟度別授業
教科書	改訂版 高等学校 数学 I , 数研出版
使用教材等	クリアー数学 I +A, 数研出版 改訂版 クリアー数学I 完成ノート 数と式, 集合と命題, 数研出版 改訂版 クリアー数学I 完成ノート 2次関数, 数研出版 改訂版 クリアー数学I 完成ノート 図形と計量, データの分析, 数研出版 数研出版 チャート式 基礎からの数学 I +A, 数研出版 改訂版 チャート式 基礎からの数学I 完成ノート数と式, 集合と命題, 数研出版 改訂版 チャート式 基礎からの数学I 完成ノート 2次関数, 数研出版 改訂版 チャート式 基礎からの数学I 完成ノート図形と計量, データの分析, 数研出版 高校数学へのハイブリッジ, 東京書籍 改訂版 項目別学習ノート 式と証明, 複素数と方程式 ～数学 I からの発展学習～, 数研出版

科目の目標・内容等

学習目標	数と式, 図形と計量, 2次関数及びデータの分析について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。
学習における留意点	中学までの内容を十分に理解している必要がある。中学に比べて学習する内容は難易度が高い。中学までに学習したことはしっかり復習した上で授業に望んでほしい。
予習・復習	予習は出来るに越したことはないが, 新たな数学的思考方に対する自らのイメージづくりに努めて欲しい。復習の方が重要である。新たな数学的思考方を使って, 計算が出来るように反復計算練習を十分に作る。
評価方法	定期考査・平常点(小テスト・課題 等)・課題テスト 等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式 第2章 集合と命題 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	式の計算・因数分解及び一次不等式についての理解を深め、能率よく計算ができるようにする。 命題や条件などの用語の定義を学び、命題の逆、裏、対偶について理解する。対偶を利用した証明法や背理法による証明法を学び、論理的な思考力を身につける。	式の計算や不等式などに関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、事象の考察に活用しようとしている。 集合と論証に関心をもつとともにその有用性を認識し、事象の考察に活用しようとしている。
2	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式 2次不等式 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角比の応用	2次関数について理解し、関数を用いて具体的な事象の考察や2次方程式2次不等式を解くなど活用できるようにする。 三角比について理解し、基本的な性質について理解を深めていく。 図形の計量の基本的な性質について理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。	2次関数について理解し、関数を用いて具体的な事象の考察や2次方程式、2次不等式を解くなど活用しようとしている。 三角比に関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、事象の考察に活用しようとしている。 図形の計量の基本的な性質について理解し、具体的な事象の考察に活用しようとしている。
3	第5章 データの分析 データの分析 数学 I からの発展学習 式と証明	データからデータの散らばりや相関等の統計の基本的な考え方を理解し、活用できるようにする。 整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	データの分析に関心をもつとともに、いろいろな手法を認識し、事象の考察に活用しようとしている。 3次式の因数分解、二項定理とパスカルの三角形、文字を含む整式の割り算、恒等式等について考察することができる。等式・不等式の証明、相加平均・相乗平均の大小関係の有用性等に、興味・関心をもつ。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度
教科名等

数学 科

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
数学Ⅱ	数学Ⅱ	2	A B C D E F	4	必履修	140 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	大貫、荻原、斉藤、高田
授業形態	習熟度(2クラス3展開)
教科書	改訂版 高等学校 数学Ⅱ, 数研出版
使用教材等	改訂版 教科書傍用クリアー 数学Ⅱ+B 改訂版 クリアー数学Ⅱ完成ノート 1式と証明 2図形と方程式 3三角関数, 指数・対数関数 4微分法と積分法 増補改訂版 チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B

科目の目標・内容等

学習目標	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。
学習における留意点	数学Ⅰまでの内容を理解できていること。
予習・復習	教科書を用いて予習を行い、問題集で復習を行う。
評価方法	定期考査、提出物、小テスト等で総合的に判断する。

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	第2章 複素数と方程式 第2節 高次方程式 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域	・数の範囲を複素数まで拡張し、2次方程式や高次方程式が解けるようにする。 ・座標や式を用いて、直線や円などの平面図形の性質や関係を数学的に表現することができるようにする。	・基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ・事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
2	第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数	・角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ・事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
3	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化 第3節 積分法	・微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	・基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ・事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度
教科名等

数学 科

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
X数学Ⅱ	数学Ⅱ	3	A B	2	必修選択	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	清水昌彦
授業形態	講義・演習等
教科書	改訂版 高等学校 数学Ⅱ，数研出版
使用教材等	大学共通テスト対策/基本と演習 数学Ⅰ・A＋Ⅱ・B標準演習PLAN100，数研出版 大学共通テスト対策/基本と演習 数学Ⅰ・A＋Ⅱ・B上級演習PLAN120，数研出版

科目の目標・内容等

学習目標	大学入学共通テストに対応できる数学の力を身に付ける。
学習における 留意点	入試を意識した講座なので進度が速い。毎回の予習と復習を欠かさないことが望まれる。
予習・復習	毎時間
評価方法	定期考査・平常点 等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	数学Ⅰ 数と式、2次関数、図形と計量、データの分析 数学A 場合の数と確率、図形の性質、整数の性質 数学Ⅱ 式と証明、図形と方程式、関数、微分と積分 数学B ベクトル、数列	数学ⅠA、数学ⅡBについて、内容を復習し理解する。問題演習を通して、技能の習熟を図る。	数学ⅡBについて理解し、また問題演習を通して、技能の習熟を図ろうとする意欲。
2	数学Ⅰ 数と式、2次関数、図形と計量、データの分析 数学A 場合の数と確率、図形の性質、整数の性質 数学Ⅱ 式と証明、図形と方程式、関数、微分と積分 数学B ベクトル、数列	数学ⅠA、数学ⅡBについて、内容を深く理解する。問題演習を通して、技能の習熟を図る。	数学ⅡBについて理解し、また問題演習を通して、技能の習熟を図ろうとする意欲。
3	共通テスト対策	数学ⅠA、数学ⅡBについて、内容を深く理解する。問題演習を通して、技能の習熟を図る。	数学ⅡBについて理解し、また問題演習を通して、技能の習熟を図ろうとする意欲。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度
教科名等

数学 科

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
Y数学Ⅱ	数学Ⅱ	3	C D	5	必修選択	175 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	大貫敏章
授業形態	講義・演習等
教科書	改訂版 高等学校 数学Ⅱ，数研出版
使用教材等	リンク数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B，数研出版 ランダム演習 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B 数研出版

科目の目標・内容等

学習目標	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学Bを中心にした内容の復習を行うとともに、技能の習熟を図り、大学入試に対応できる力を培う。
学習における留意点	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学Bの基本的内容を理解している。
予習・復習	予習を前提とした問題演習を行う。
評価方法	定期考査・問題演習・小テスト・課題等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学B 1. 数と式 2. 集合と命題 3. 2次関数 4. 図形と計量 5. データの分析 6. 場合の数と確率 7. 図形の性質 8. 整数の性質 9. 式と証明 10. 複素数と方程式 11. 図形と方程式 12. 三角関数 13. 指数関数と対数関数 14. 微分法と積分法 15. ベクトル 16. 数列 17. 補充問題	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学Bについて、リンク数学演習approachに出題された基本問題の演習を通して復習を行う。basicに出題された基本問題の演習を通して定着を促す。	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学Bについての理解を深かさ、問題演習を通して、技能の習熟、授業における意欲等
2	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学B 1. 数と式 2. 集合と命題 3. 2次関数 4. 図形と計量 5. データの分析 6. 場合の数と確率 7. 図形の性質 8. 整数の性質 9. 式と証明 10. 複素数と方程式 11. 図形と方程式 12. 三角関数 13. 指数関数と対数関数 14. 微分法と積分法 15. ベクトル 16. 数列 17. 補充問題	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学Bについて、リンク数学演習challengeに出題された問題の演習を通して入試問題の基礎と技能の習熟、ランダム問題 数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bを通して入試問題の演習できる技能の習熟を図る。リンク数学演習development・入試レベルの問題演習で入試問題の解法技能の習熟を図る。	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学Bについての理解を深かさ、問題演習を通して、技能の習熟、授業における意欲等
3	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学B ・総合問題	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学B入試直前講習を通して、総合問題の問題演習を通して、入試レベルの解法技能の習熟を図る。	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱについて理解し、また問題演習を通して、技能の習熟を図ろうとする意欲。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度
教科名等

数学 科

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
Ⅱ数学Ⅱ	数学Ⅱ	3	C D	3	必修選択	105 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	伊藤柊人
授業形態	講義・演習等
教科書	改訂版 高等学校 数学Ⅱ，数研出版
使用教材等	ニューパワーオン数学Ⅰ+A+Ⅱ+B[数列・ベクトル]，東京書籍 解法イメージトレーニングランダム演習 数学Ⅰ+Aー応用編，数研出版 リンク数学演習Ⅰ・A，数研出版

科目の目標・内容等

学習目標	数学Ⅰ・数学Aを中心にした内容の復習を行うとともに技能の習熟を図り、大学入試(看護系)に対応できる力を培う。
学習における留意点	数学Ⅰ・数学Aの基本的内容を理解している。
予習・復習	予習を前提とした問題演習を行う。
評価方法	定期考査・問題演習・課題等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	数学Ⅰ・数学A 1 数と式 2 集合と命題 3 2次関数 4 図形と計量 5 データの分析 6 場合の数と確率 7 図形の性質 8 整数の性質	数学Ⅰ・数学Aについて、内容を復習し理解する。ランダムに出題された基本問題の演習を通して、技能の習熟を図る。	数学Ⅰ・数学Aについて理解し、また問題演習を通して、技能の習熟を図ろうとする意欲。
2	数学Ⅰ・数学A ・総合問題	数学Ⅰ・数学Aについて、内容を復習し理解する。入試レベルの問題演習を通して、技能の習熟を図る。	数学Ⅰ・数学Aについて理解し、また問題演習を通して、技能の習熟を図ろうとする意欲。
3	数学Ⅰ・数学A ・総合問題	数学Ⅰ・数学Aについて、入試レベルの問題演習を通して、技能の習熟を図る。	数学Ⅰ・数学Aについて理解し、また問題演習を通して、技能の習熟を図ろうとする意欲。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度
教科名等

数学 科

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
Z数学Ⅲ	数学Ⅲ	3	C D	5	必修選択	175 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	清水昌彦 藤井実
授業形態	習熟度2展開
教科書	高等学校 数学Ⅲ 数研出版
使用教材等	数研出版 クリアー数学Ⅲ 完成ノート 式と曲線, 関数, 極限, 微分法とその応用, 積分法とその応用 数研出版 チャート式基礎からの数学Ⅲ 数研出版 リンク数学演習Ⅲ

科目の目標・内容等

学習目標	平面上の曲線, 極限, 微分法および積分法についての理解を深める
学習における 留意点	事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとさせる。
予習・復習	予習:教科書、チャート式基礎からの数学Ⅲ 復習:完成ノート、リンク数学演習Ⅲ
評価方法	考査、提出物等総合的に判断する

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	第2章 式と曲線 第3章 関数 第4章 極限 第5章 微分 第6章 微分の応用 第7章 積分とその応用	円錐曲線、いろいろな関数、数列・関数の極限、三角関数と極限、関数の連続性、微分係数と導関数、いろいろな関数の導関数、接線と法線、不定積分、置換積分法、部分積分法、いろいろな関数の定積分など	平面上の曲線, 極限, 微分法および積分法における基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し, 知識を身に付けている 数学的に表現・処理する仕方 や推論の方法などの技能を身に付けているなど
2	第6章 微分の応用 第7章 積分とその応用 応用問題演習	接線と法線、平均値の定理、関数の値の変化、関数の最大と最小 面積、体積、曲線の長さ、速度と道のり、入試問題演習と解説	平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法および積分法における応用的な概念, 原理・法則などを実践的な力を知識を身に付ける 数学的に表現・処理する仕方 や推論の方法などの技能を身に付けているなど
3	応用問題演習	入試問題演習と解説	実践的な力を知識を身に付ける

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度
教科名等

数学 科

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
Z数学Ⅲ	数学Ⅲ	3	C D	2	自由選択	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	清水昌彦 藤井実
授業形態	習熟度2展開
教科書	高等学校 数学Ⅲ 数研出版
使用教材等	数研出版 クリアー数学Ⅲ 完成ノート 式と曲線, 関数, 極限, 微分法とその応用, 積分法とその応用 数研出版 チャート式基礎からの数学Ⅲ 数研出版 リンク数学演習Ⅲ

科目の目標・内容等

学習目標	平面上の曲線, 極限, 微分法および積分法についての理解を深める
学習における 留意点	事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとさせる。
予習・復習	予習:教科書、チャート式基礎からの数学Ⅲ 復習:完成ノート、リンク数学演習Ⅲ
評価方法	考査、提出物等総合的に判断する

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	第2章 式と曲線 第3章 関数 第4章 極限 第5章 微分 第6章 微分の応用 第7章 積分とその応用	円錐曲線、いろいろな関数、数列・関数の極限、三角関数と極限、関数の連続性、微分係数と導関数、いろいろな関数の導関数、接線と法線、不定積分、置換積分法、部分積分法、いろいろな関数の定積分など	平面上の曲線, 極限, 微分法および積分法における基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し, 知識を身に付けている 数学的に表現・処理する仕方 や推論の方法などの技能を身に付けているなど
2	第6章 微分の応用 第7章 積分とその応用 応用問題演習	接線と法線、平均値の定理、関数の値の変化、関数の最大と最小 面積、体積、曲線の長さ、速度と道のり、入試問題演習と解説	平面上の曲線と複素数平面, 極限, 微分法および積分法における応用的な概念, 原理・法則などを実践的な力を知識を身に付ける 数学的に表現・処理する仕方 や推論の方法などの技能を身に付けているなど
3	応用問題演習	入試問題演習と解説	実践的な力を知識を身に付ける

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度
教科名等

数学 科

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
数学A	数学A	1	A B C D E F	2	必履修	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	伊藤 柊人、大貫 敏章、永岡 美恵子、藤井 実
授業形態	クラス別一斉授業
教科書	改訂版 高等学校 数学A 数研出版
使用教材等	数研出版 クリアー数学Ⅰ+A、数研出版 改訂版 クリアー数学A 完成ノート 場合の数と確率、数研出版 改訂版 クリアー数学A 完成ノート 整数の性質、数研出版 改訂版 クリアー数学A 完成ノート 図形の性質、数研出版 数研出版 チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A、数研出版 改訂版 チャート式 基礎からの数学A 完成ノート 場合の数と確率、数研出版 改訂版 チャート式 基礎からの数学A 完成ノート 図形の性質、整数の性質、数研出版

科目の目標・内容等

学習目標	場合の数と確率、整数の性質、図形の性質について理解を深め、数学的な見方・考え方を身に付ける。
学習における留意点	中学校で習った内容は、すでに身に付いているとして、授業は進められる。必要な知識は授業中に確認されるが、自らも復習しておいて欲しい。新たな数学的思考方が出てきますので自分のものとして消化できるよう反復練習をして欲しい。
予習・復習	予習は出来るに越したことはないが、新たな数学的思考方に対する自らのイメージづくりに努めて欲しい。復習のほうが重要である。新たな数学的思考方を使って、計算が出来るように反復計算練習を十分にすすめる。
評価方法	定期考査・平常点(小テスト・課題 等)・課題テスト 等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	準備 集合 1章 場合の数と確率 1 場合の数 2 確率	順列・組み合わせについて学んだ後、不確定な現象を数学的に扱う確率の考え方について学びます。特に、現象を分析する際に、場面に応じて適切な事象に分割して考えることを学びます。	場合の数を計算するとき、効率的に数え上げることを理解し、活用しようとする意欲。また、確率の定義を理解したうえで、論理的な考え方を駆使し、実際に活用しようとする意欲。
2	2章 図形の性質 1 平面図形 2 空間図形	三角形や円を含む図形に現れる線分の比について学びます。また、作図の問題を考えます。いろいろなゲームでは、私たちが使える手は限られているのが普通ですが、作図の問題は、決められたルールで定規とコンパスだけを使うゲームです。また、正多面体についても学びます。	三角形や円の基本的な性質を理解し、その性質を様々な場面で活用しようとする意欲。 空間図形の性質を理解し、その性質を様々な場面で活用しようとする意欲。
3	3章 整数の性質 1 約数と倍数 2 ユークリッドの互除法 3 整数の性質の活用	自然数の素因数分解の性質を復習し、2つの自然数の最大公約数を求めるユークリッドの互除法、方程式の整数解の求め方、記数法などを学びます。	約数と倍数の性質、ユークリッドの互除法を理解し、具体的な事象の考察に活用しようとする意欲。 整数の性質を理解し、それらを活用しようとする意欲。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度
教科名等

数学 科

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
α 数学B	数学B	2	A B C D E F	2	必修選択	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	伊藤、荻原、斉藤、清水昌、高田
授業形態	選択授業
教科書	改訂版 高等学校 数学B, 数研出版
使用教材等	改訂版 教科書傍用クリアー 数学Ⅱ+B 改訂版 クリアー数学B 完成ノート 平面上のベクトル、空間のベクトル、数列 増補改訂版 チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B

科目の目標・内容等

学習目標	ベクトル、数列について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。
学習における留意点	予習・復習・宿題を確実に行之、授業を通して学習内容の定着を図る。
予習・復習	予習:教科書、復習:クリアー数学B
評価方法	定期考査・平常点・提出物・課題テスト等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形	ベクトルについての基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係をベクトルを用いて表現できるようにする。また、それらを活用する力を養う。直線や円のベクトル方程式について理解する。特にベクトル方程式については、媒介変数表示と関連させて理解する。また、それらを活用する力を養う。	・基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ・事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 ・定期考査 ・授業の参加姿勢や態度 ・提出物 ・小テスト
2	第2章 空間のベクトル 第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列	空間ベクトルについての基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係をベクトルを用いて表現できるようにする。また、それらを活用する力を養う。直線や球のベクトル方程式について理解する。数列の表し方、数列の概念について理解する。 等差数列、等比数列の一般項及びその和について理解する。自然数の和、自然数の平方の和、自然数の立方の和を求められるようにする。記号 Σ について、理解し、利用できるようにする。階差数列を用いて一般項を求める方法について理解する。	・基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ・事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 ・定期考査 ・授業の参加姿勢や態度 ・提出物 ・小テスト
3	第3章 数列 第2節 いろいろな数列	いろいろな数列の和を求めることができるようにする。二項間の漸化式について、その式の意味を理解し、一般項を求められるようにする。二項間の漸化式について、その式の意味を理解し、一般項を求められるようにする。 数学的帰納法について理解し、活用できるようにする。	・基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ・事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 ・定期考査 ・授業の参加姿勢や態度 ・提出物 ・小テスト

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度
教科名等

数学 科

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
β 数学B	数学B	2	A B C D E F	3	必修選択	105 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	伊藤、荻原、斉藤、清水昌、高田
授業形態	選択授業
教科書	改訂版 高等学校 数学B, 数研出版
使用教材等	改訂版 教科書傍用クリアー 数学Ⅱ+B 改訂版 クリアー数学B 完成ノート 平面上のベクトル、空間のベクトル、数列 増補改訂版 チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B

科目の目標・内容等

学習目標	ベクトル、数列について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。
学習における留意点	予習・復習・宿題を確実に行之、授業を通して学習内容の定着を図る。
予習・復習	予習:教科書、復習:クリアー数学B
評価方法	定期考査・平常点・提出物・課題テスト等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	第1章 平面上のベクトル 第2章 空間のベクトル	ベクトルについての基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係をベクトルを用いて表現できるようにする。 直線や円のベクトル方程式について理解する。とくにベクトル方程式については、媒介変数表示と関連させて理解する。また、それらを活用する力を養う。 平面上のベクトルを拡張し、空間のベクトルへ発展させる。	・基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ・事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 ・定期考査 ・授業の参加姿勢や態度 ・提出物 ・小テスト
2	第3章 数列	数列の表し方、数列の概念について理解する。等差数列、等比数列の一般項およびその和について理解する。自然数の和、自然数の平方の和、自然数の立方の和を求められるようにする。記号Σについて、理解し、利用できるようにする。階差数列を用いて一般項を求める方法について理解する。工夫して、いろいろな数列の和を求めることができるようにする。二項間の漸化式について、その式の意味を理解し、一般項を求められるようにする。数学的帰納法について理解し、活用できるようにする。	・基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ・事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 ・定期考査 ・授業の参加姿勢や態度 ・提出物 ・小テスト
3	数学Ⅲ 第1章 複素数平面	複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。複素数平面、複素数の極形式、ド・モアブルの定理、複素数と図形などの理解を深め、ベクトルとの関連性を考察する。	・基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ・事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 ・定期考査 ・授業の参加姿勢や態度 ・提出物 ・小テスト

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。